

社会福祉法人
パーソナル・アシスタント とも
〒2790022 千葉県浦安市今川1-14-52
TEL:047-304-8808
FAX:047-304-8821

みんながともに生きている 実感が持てる社会であってほしい

誰もが同じ権利を持つ人として、障がいがあっても必要な支援を受けて、当たり前で日常を過ごすことが出来る社会。移動支援はその要になる支援です。

社会参加とは、例えば働く、余暇活動を楽しむ、地域社会の集団活動や行事に参加するなどが挙げられますが、それらには“移動する”ことが伴います。様々な障がいにより一人で移動することが難しくければ、自由公平な社会参加が困難になってしまいます。人には自由に外出したりして人生を楽しむ権利があります。誰もが実社会での様々な体験をして成長して行く中で、多様な人々と接することはとても大事な事です。

支援が必要な人達の移動に制限が無くなる事は、それは誰にとっても移動しやすく暮らしやすい社会になるという事です。しかし現状では、車いすの方がバスに乗ろうとバス停で待っていても、その方を

乗せることなく走り去ってしまうバスがあったと聞きます。公共施設などに未だ段差などのバリアがある。また、バリアフリーになっても支援してくれる介助者が見つからず、結局外出できないことも…。ともでは、身体に障がいがある方はもちろん、身体に障がいはないけれど支援が必要な、お子さんから大人まで、たくさんの方に移動支援を提供しています。例えば一人で公共交通機関が利用できるよう練習したり、映画やライブに出かけたりするマンツーマンでの外出はもちろん、みんなで大型バスに乗り、夏はプール、秋は味覚狩りと季節を感じる場所、博物館や工場見学など、少し遠出をしたりする企画もあります。

ともは制度ができる前から「ともに生きる」につながる移動支援を大切に考え、実践してきました。こんなことしてみたい、あんなところに行けるかな…を、これからも一緒に考えていきたいと思っています。

利用者さんと一緒に移動する
ともスタッフのYさん

移動支援での 社会参加は社会を変える

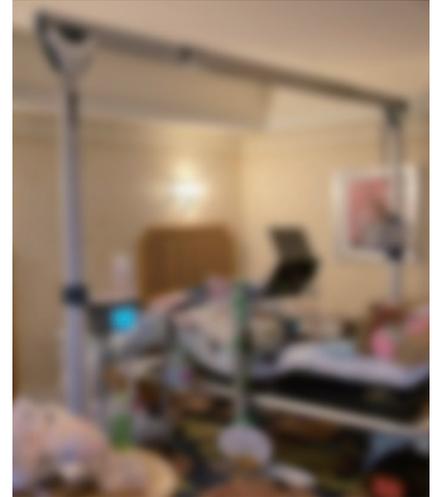
スタッフ
Mより

難病のALS（筋萎縮性側索硬化症）を
お持ちの奥様、その旦那様からの
お問い合わせ

家族を連れて
浦安のディズニーに
旅行に行きたい

令和6年1月下旬、一本の電話がありました

長野県在住のNさんという方からの問い合わせの内容は、「家族を連れて浦安のディズニーに旅行に行きたい。そのためにはリフトなどの福祉用具が必要なのですが・・・」というもので、奥様が難病のALS（筋萎縮性側索硬化症）で、この何年かは遠方への外出もされていないとのことでした。宿泊先での介助に必要な、リフトを旅行期間中借りることが出来ないか？既にいくつかの事業者には断られているらしく、旅行そのものにも困難さを感じてしまっているようでした。私は、「今まで何度も重い障がいのある方達の外出を支援してきたことや、どうやったら実現できるか？を考えながら事業運営している法人であることなどを説明し、『家族で旅行に行きたいという、当たり前のお気持ちに』最後まで寄り添い支援させていただきたい旨をお伝えしました」。宿泊先のホテルとのやり取りもさせていただき、部屋の図面やベッドやリフトの設置場所を、ご家族と調整させていただきながら準備を進めました。部屋にリフトを搬入するための経路確認を行った結果、入り口を通らないサイズのリフトを一度分解してあるものを再度組み立てする必要があるため、何度も繰り返し練習を行い最短時間で設置できるようになりました。ホテルの担当者も、チェックイン時間の1時間前から搬入設置が出来るように配慮してくれました。ホテルとしても初めての搬入と撤収に立ち会ってくれた担当者も、当初は戸惑いもあったものの、ゲストが楽しく滞在を終えることが出来た事を実感し、「こうすれば出来るんですね」と感想を話してくれました。



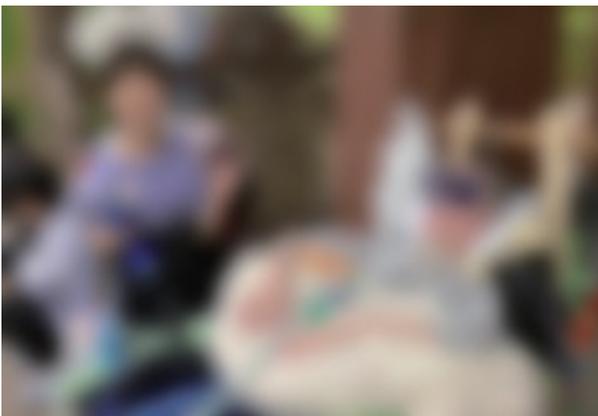
宿泊施設、リフトによる実際の支援の様子

滞在を終えて、何枚かの写真とともに1通のメールが届きました

移動支援が
当たり前
に利用できる
希望

介護用品レンタル業者
にも断られ、
絶望していた時

この度は、ホテルへの手配等ありがとうございました。おかげ様で無事3日間楽しんで帰って来ることができました。ありがとうございました。到着が遅れてしまったにもかかわらず、リフト調整のために待ってくださった設置会社の方にも改めてお礼を申し上げます。計画始めた時は介護用品レンタルの業者さんに断られてしまったり、難しいとお返事をもらったり、こちらでお願いしている重度介護ヘルパーの会社も、県をまたいで泊りで行くケアは前例が無く対処できかねる話をされ、無理かと半ば諦めていました。そんな中、Mさんに心強い言葉をいただき、心臓の下の方が熱くなってモヤモヤが取れ目の前が明るくなった瞬間を今でも忘れられません。Mさんとしては、経験済みの可能なお話として言っただけかもしれませんが、その時に置かれていた私の状況からすればこれ以上に嬉しく感動する言葉はありませんでした。コロナ渦もあり、妻と一緒に掛けた旅行は5年ぶりで、5年前はまだ呼吸器も無く歩くこともできました。ALSという病気を私よりも良く知っているそちらからすれば分かっているとは思いますが妻の状態は進行し続けております。昨年頃から首から上にも症状が始めましたので急いで実現したかったというもあります。お陰様で予定していた新エリアにも入れ、次回への希望も話し合うことができ、未来を考えられる大きな一歩となりました。本当にありがとうございました。



宿泊後、当日を楽しむNさんの奥様

家族で旅行に行きたい 単純な願いから始まった

今回、N家の皆さまが「家族で旅行に行きたい」という当たり前の願いを最後まで持ち続けてくれたこと、そのお手伝いをさせていただけたこと、こころより感謝申し上げます。N家の皆様の頑張りのおかげで、越境宿泊の支援を出来るヘルパーの会社が地元で誕生したり、リフトの分解・組み立てに習熟した職員育成が出来たり、ホテルのサービス向上がされたり、皆が住みやすい世の中になる確実な一歩が進んだのです。かかわった人たちに笑顔と自信が生まれた事も忘れてはいけない大きな影響です。今しばらく暑い日が続きそうですが、どうぞご自愛ください。



移動支援の手助けをしたMさん

実際に宿泊するホテルスタッフと連携することにより実現
家族で旅行に行きたい
その願いを叶えるため、
社会に足りないものを
育成し、実装する

みんなの当たり前を実現する 「移動支援」になってほしい

スタッフ
Yより

買
い
物
に
行
き
た
い
当
た
り
前
の
こ
と
が

ともに入職した当初、パーソナルケアセンターに入ってきた移動支援の利用予約に、「買い物に行きたい」という内容を見て衝撃を受けたことを覚えています。私が当たり前に行っている、ふらっとスーパーに行ったりする事が、障害があることで自由にできないと言う事に。誰かのサポートを必要とすると言うことは、そういった小さな自由も自分の意思だけでは叶わないと言う事なのだ実感しました。しかし、実際に移動支援のサービスを提供するようになり、ご利用者様と様々な場所にお出かけをした事で、それは「できない事」ではなく「サポートがあれば出来る事」なのだ気がつきました。障がいなどで、物理的に外に出ることが困難でも、全ての人が当たり前好きなときに好きなところに出かけたいという自由を叶えられるようになってほしいです。

今年6月、医療的ケアのあるご利用者様の海外旅行のケアを行いました。6泊8日の旅行でしたが、日用品以外にも医療機器や補助具など必要な物品が多いため、大型スーツケースでも入りきらず、事前に荷物を送る必要があると知り、旅行の大変さを感じました。過去に経験

のある先輩職員やご家族と話し合いながら、送る物を決めていきましたが、薬や医療物品は忘れては手に入らないと言う緊張がありました。また、飛行機に乗るために医療機器のバッテリーや型番など事細かく打ち合わせる必要があったり、ホテルで用意してもらう物、リフト付きの車を手配などなど…。持ち物にも移動手段にも、全ての事に膨大な準備が必要な事を知りました。準備が大変だからと、旅行を諦めている方も多いのではないかと感じたほどです。しかし、旅行中ずっと笑顔で過ごされて、帰ってからまた行きたいときりに話しているご利用者様を見て、旅行に行きたいと言う思いを諦めないでほしいと思いました。その夢を叶えるため、私達は全力を尽くします。

江里は
みんなと
生きていく

映画『江里はみんなと生きていく』東京に続き、大阪での劇場公開が決定！当法人の職員で利用者の西田江里が主人公のドキュメンタリー映画は、都内アートシアター・ポレポレ東中野での一般公開を皮切りに、全国各地で上映していきます。12月には大阪第七藝術劇場での公開も決まりました。

○東京 ポレポレ東中野 10月26日(土)から3週間上映の予定 <https://pole2.co.jp/>

○大阪 第七藝術劇場 12月14日(土)から1週間上映の予定 <http://www.nanagei.com/>

この機会に是非ご覧ください。上映の輪をできるだけ大きくひろげていけるよう活動していく所存です。お力添えのほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



「とも」を支えてくださる方々



社会福祉法人パーソナル・アシスタンスともご寄付のお願い

社会福祉法人となっても、その財源は今までと何も変わらない現実です。皆様からの寄付は現在行っている社会福祉事業に役立たせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。なお、「とも」への寄付は、以下の税制上の優遇措置があります。

- ◆個人の方は、所得税に係る「寄付金控除の対象」になっています。
- ◆法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で損金の額に算入することができます。
- ◆相続や遺贈によって受けた財産を寄付した場合は、その分は相続税の対象外となります。

寄付金
振込先

銀行名：京葉銀行 新浦安支店 口座番号：普通 5429331
口座名義：社会福祉法人パーソナル・アシスタンスとも
理事長 西田良枝

ご利用案内

【個別のケアサービス】

- パーソナルケアセンター
 - ・障害福祉サービス（居宅介護・重度訪問介護・行動援護）
 - ・介護保険サービス（訪問介護・介護予防訪問介護）
 - ・移動支援事業・浦安市通院ヘルプサービス事業
 - ・パーソナルケアサービス（制度外の支援）
 - ・介護保険外生活支援サービス
- パーソナル・アシスタンスとも居宅介護支援事業所【休止中】



【様々な療育事業】

- イルカスイミングクラブ ●音楽療法 ●ムーブメント療育
- 卓球教室 ●造形教室 ●ダンスクラブ ●体操



【日中活動・就労・機能訓練・余暇等の支援】

- 浦安市斎場内売店運営
- 就労継続支援 B 型事業所とも
 - ・キッチンカフェほっぷ運営
 - ・カフェテラスゆう（浦安市老人福祉センター内カフェ）運営
- ハレレア 共同生活援助（グループホーム）



【緊急時の宿泊も可能な支援】

- 浦安市障がい者等一時ケアセンター事業（指定管理者）



【子どもの発達支援】

- 障害児通所支援事業所 ふあり
（児童発達支援／放課後等デイサービス）
- 障害児通所支援事業所 マリーナ
（児童発達支援／放課後等デイサービス）



【訪問看護事業】

- 訪問看護ステーションとも



【生活支援のための相談】

- 相談支援事業所きかん
 - ・指定一般相談支援事業（千葉県指定）・指定特定相談支援事業（浦安市指定）・指定障害児相談支援事業（浦安市指定）
- 「相談支援事業所ふあり」指定特定相談支援事業（浦安市指定）
- ・指定障害児相談支援事業（浦安市指定）



【福祉機器等の貸与・販売】

- 福祉用具のレンタルや販売、日生具、補装具など【休止中】

連絡先のご案内

事業名	電話番号	メールアドレス
●パーソナル・アシスタンスとも	047-304-8808 tomo@patomo.jp
●パーソナル・アシスタンスとも（予約専門）	047-304-8811	
●障害児通所支援事業所 ふあり	047-304-8860 tomo-huali1@patomo.jp
●障害児通所支援事業所 マリーナ	047-304-8815	
●相談支援事業所 ふあり	047-304-8860 tomo-huali2@patomo.jp
●日中一時支援事業所 マリーナテラス	047-304-8815	
●キッチンカフェほっぷ	047-304-8820	
●ハレレア 共同生活援助（グループホーム）	047-304-8808	
●浦安市基幹相談支援センター（相談窓口）	047-304-8822 tomo-soudan3@patomo.jp
●相談支援事業所きかん	070-5588-8822	
●浦安市障がい者等一時ケアセンター	047-350-8771	
●訪問看護ステーションとも	047-304-8808	
●パーソナル・アシスタンスとも	070-5561-8808	

福祉用具貸与販売事業所

ボランティア随時募集

◆療育に関わるボランティア

イルカスイミングクラブ、生活塾、造形教室、体操教室、音楽療法、ムーブメント療育、ダンス教室
卓球教室のサポート

◆フリマ・イベントでのお手伝い、ケアルームのおもちゃ消毒など

編集人：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンスとも
〒279-0022 千葉県浦安市今川 1-14-52

編集後記 移動支援というのは、当たり前には体験できることを、皆さんに知ってもらえなければ良いと思いました。豊かな生活を実現するために、ぜひ、ご活用ください。



FAX 番号 047-304-8821

ホームページ www.patomo.jp